

旧東宮御所(現 迎賓館 赤坂離宮)の家具

家具No.	設計図	カタログ	明治村所蔵	数量	単価(フラン)
98	上部大理石小机			1	750
99	上部大理石小机			1	750
100	盆栽台			1	700
101	天鵝絨付足台			4	160
102	薔薇色地合彩染絹白及金色ルイ16世風トルシエール			4	2,700

家具No.	設計図	カタログ	明治村所蔵	数量	単価(フラン)
92	薔薇色地合彩染絹白及金色ルイ16世風小脇掛椅子			1	550
93	彩染絹付白及金対座椅子			1	2,000
94	屏風			1	40
95	上部大理石1メートル60/架机			1	3,750
96	上部大理石鍍金物付1メートル60/家具			1	6,500
97	上部羅紗付一脚ノ机			1	2,000

家具No.	設計図	カタログ	明治村所蔵	数量	単価(フラン)
86	薔薇色地合彩染絹白及金色ルイ16世風脇掛椅子			8	900
87	同上 椅子			6	675
88	同上 長椅子			2	3,000
89	同上 大椅子			1	1,400
90	同上 小椅子			1	1,300
91	彩染絹付白及金マルキーズ			1	1,800

※空欄は資料が確認できないもの

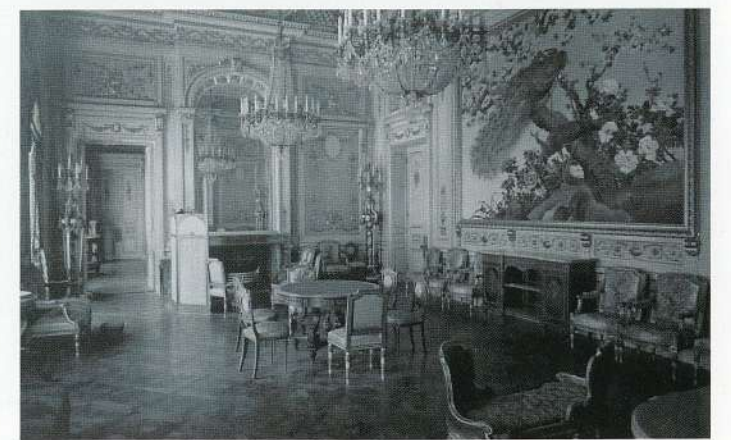
文書資料と現存資料とを比較する

博物館明治村には旧東宮御所の創建当初の家具が数多く収蔵されていることは、すでにこの誌面で何度かご紹介してまいりました。

フランス人フルディノア納入の家具については、「家具設計図」と名付けられた資料が宮内庁宮内公文書館に遺されていることは多くの研究者の指摘するところです。そしてその設計図に付された番号と家具に付された番号が一致することもすでに報告してきた通りです。今回、宮内公文書館でさらに調査を進めていく過程で、片山東熊関連資料の中の「テーブル等カタログ」「椅子等カタログ」(以下、「カタログ」と表記)と名付けられた写真帳を発見しました。この写真帳の写真に付された番号は「家具設計図」の番号に一致し、さらに文書資料に記載された家具リストの番号とも一致したことから、単なる家具の「カタログ」ではなく、まさにフルディノアが納入した家具の当初の写真をまとめた写真帳であることを確認しました。この写真の存在により、色彩はわからないまでも、家具の布張地の雰囲気や模様などを具体的に知ることが旧東宮御所創建当

初のインテリアを知る上で非常に貴重な資料であることがわかりました。

旧東宮御所は昭和に入り、その役目は大きく変化します。特に戦後は国会図書館、裁判官弾劾裁判所、東京オリンピック組織委員会など使用用途が度々変更されたからです。その中で、動産である家具は離散の運命に遭います。同じ部屋の家具であっても、バラバラになり、そして縁あって博物館明治村に収められ、再び当初の一部屋単位のもととして見学者の皆様にご覧いただくことができるようになりました。旧東宮御所の所管が転々としたため、博物館明治村ではそれら家具は、まず博物館明治村開村当初に宮内庁から払い下げられたもの、次いで昭和の大改修の際に迎賓館から寄贈されたものの、二度にわたって受け入れをしています。特に昭和の大改修の際には、朝日・彩鸞・羽衣・花鳥の四室を除くと、部屋の用途は大幅に変更になったため、不要となった家具は夥しい数にのぼったと推定されます。



旧東宮御所孔雀の間(現 迎賓館 赤坂離宮)

春の催しもの
3▶6月

あなたも探偵に!? 明治村の新たな謎解きゲームが始動!!

明治探偵GAME

明治連続神隠しの怪

3.5sat. → 7.24sun.

舞台は明治時代のとある探偵社。あなたは、名探偵「明治小五郎」の助手として、わずかな手がかりをもとに明治村内を捜査し、依頼された難事件を解決しなければならない。

大人の方からお子様まで、ファミリー、カップル、お友達同士で楽しめる謎解きに、さあ挑戦!

<ストーリー>

明治時代、文明開化を果たした日本は、近代化の名の下にさまざまな変革を遂げていた。そんな時代に、突如として現れた一人の男がいる。彼の名は「明治小五郎」。卓越した推理力で数々の難事件を解決へと導いた名探偵である。今日も、彼の「明治探偵社」には様々な事件が舞い込んできているようだ。

「やあやあ諸君、ごきげんよう。今日もたくさんのお捜査依頼がきているようですね。どうやら今、世間では「神隠し」が流行っているらしい。実に興味をそそられる。さて、優秀なる諸君、出番だよ。我らの力ですべての謎を解き明かそうじゃないか! 明治小五郎の助手として、愛猫とともに「神隠し」の謎に立ち向かえ!

「謎解き」は難易度別に、6コースをご用意。あなたはどの依頼に挑戦する!?

<p>依頼書 W 300円 ~消えた時計を探せ!~ 難易度 0.5 ★★★★★ 小学生向けのコース。低学年のみならずお父さん、お母さんと挑戦!</p>	<p>依頼書 ㊦ 600円 ~少年はいずこへ?~ 難易度 1 ★★★★★ 明治村の謎解きは初めてという方に最適!</p>	<p>5.14 Sat 始動! 依頼書 四 1,100円 難易度 4 ★★★★★ 依頼書 ㊦ をクリアした方だけが挑戦できるコース。*</p>
<p>依頼書 ㊳ 600円 ~失われた指輪と記憶~ 難易度 2 ★★★★★ 明治村の謎解きに何度か挑戦したことのある方におすすめ!</p>	<p>依頼書 参 600円 ~雄弁なる容疑者~ 難易度 3 ★★★★★ 「難しい謎ほど燃える!」という方はコチラ!</p>	<p>依頼書 五 1,100円 難易度 5 ★★★★★ 依頼書 ㊳ をクリアした方だけが挑戦できる最難関コース。クリアに要する時間は計り知れない。*</p>

賞品が当たるチャンス! 依頼書 ㊦ 以上のコースをクリアした方に抽選でステキな賞品をプレゼント!
全コースクリアキャンペーン 5.14 Sat ~ 依頼書 W ~ 五 すべてをクリアした方にはオリジナル記念品をプレゼント! (先着1,000名様)

明治探偵GAME コラボメニュー

明治小五郎たちをイメージしたメニューをご用意しました。



東海明子のケーキセット
(帝国ホテル喫茶)
950円~ ケーキ単品は500円



ワガハイのねこまんま
(めん処 なごや庵) 850円



明治小五郎のハイカラライス
(食道楽のカフェ) 850円

企画展

歌舞伎はモダン

錦絵からみる
明治の歌舞伎とその時代

明治時代の歌舞伎役者や芝居小屋が描かれた錦絵から、歌舞伎に投影された明治時代の「現在(いま)」を読み解きましょう!

開催日/5月28日(土)~
会場/三重県庁舎



たてもの修理工事現場見学

明治村の建築担当が工事現場をご案内いたします。工事中だからこそ分かる建物の魅力を発見!

事前電話予約制

▶長崎居留地二十五番館

開催日/4月16日(土)、5月28日(土)
時間/13:30~(約60分)
定員/各日20名(先着順)

▶ブラジル移民住宅

開催日/6月11日(土)
時間/13:30~(約60分)
定員/10名(先着順)

観る

へえ、これが明治の芝居小屋なんだ!

下町の情景を再現

3月5日(土)~ 呉服座周辺

まるでタイムトリップしてみたい! 呉服座一帯が様変わり! 西洋から伝わったハイカラな文化と、江戸時代から続く暮らしの文化が入り混じった、にぎやかな雰囲気をお楽しみください。



着る

明治の衣装で
ハイカラさん気分!

明治体験処 ハイカラ衣装館

明治時代風のドレスや書生服・袴姿に着替えて写真撮影をお楽しみいただけます。
場所/安田銀行会津支店
料金/一人一回800円(5分間)
*衣装着用での飲食・村内散策はできません。(時間延長不可)
*対応身長:男児女児ともに100cm~

明治
150年
記念事業
明治体感
1868年に明治に
改元されました

遊ぶ

懐かしい♪いっしょに遊ぼう!

3月12日(土)~の毎週土曜日

あつまれ!
明治のあそびコーナー

オーディナリー自転車や竹馬、ペーゴマなど、昔なつかしいあそびを体験していただけます。屋根付き無料休憩所もOPEN!

時間/10:00~15:00
会場/食道楽のカフェ横芝生広場

食べる

風味絶佳! 明治生まれのハイカラグルメ

3月5日(土)~6月26日(日)

明治時代に入り、日本人の食生活は劇的に変化しました。まさに食の文明開化! 今も愛される明治発祥のグルメをぜひご堪能ください。



食道楽のコロッケ

<1丁目「食道楽のコロッケ」と「小倉ドッグ」の店
5丁目「食道楽のコロッケ」の店
1個 180円



牛鍋

(大井牛肉店)
各一人前 松5,200円
竹/橋4,100円



洋食屋のカツレツ

(ライス・スープ付)
<明治の洋食屋 オムライス&グリル浪漫亭>
1,400円



フライドハム

<「食道楽のカレーばん」の店
1枚 380円



香竈葡萄酒

<デンキブラン 汐留バー>
300円



みつ豆

<京甘味処 なか井茶寮>
550円

乗る

明治体験

明治ののりものに乗ろう!

明治時代の蒸気機関車と京都市電に乗ってタイムトリップ!



蒸気機関車
料金/大人500円
小学生300円
※片道

京都市電
料金/大人500円
小学生300円
※1乗車

石川啄木 生誕130年記念「本郷喜之床 期間限定公開」

石川啄木の生誕130年を記念し、通常是非公開の本郷喜之床の2階で、啄木ゆかりの資料を展示します。



4月2日(土)~24日(日)

時間/13:00~15:00

A La Meiji-mura

平成27年秋、同年が西園寺公望公の没後75周年であったことから、当館では坐漁荘を会場として企画展『西園寺公望の「美」と「知」展』を開催し、西園寺公の遺愛品である煎茶道具や文房具に加え、愛読書を展示いたしました。

西園寺公の愛読書は、明治村に移築された坐漁荘とともに寄贈されました。洋書が約80冊、漢籍が約60冊、計百冊を超える書籍を所蔵しています。西園寺公の旧蔵書は、当館以外に立命館大学の「西園寺文庫」に約7000冊、京都大学の「陶庵文庫」に約8000冊が所蔵されています。当館のコレクションは、他と比べると決して多くはありませんが、西園寺公が晩年に至るまで、政治や外交のみならず、和漢洋の文学や芸術にも親しんでいたことが垣間見える貴重な資料です。

ここでは、洋書と漢籍から一冊ずつ取り上げてその一端をご紹介します。

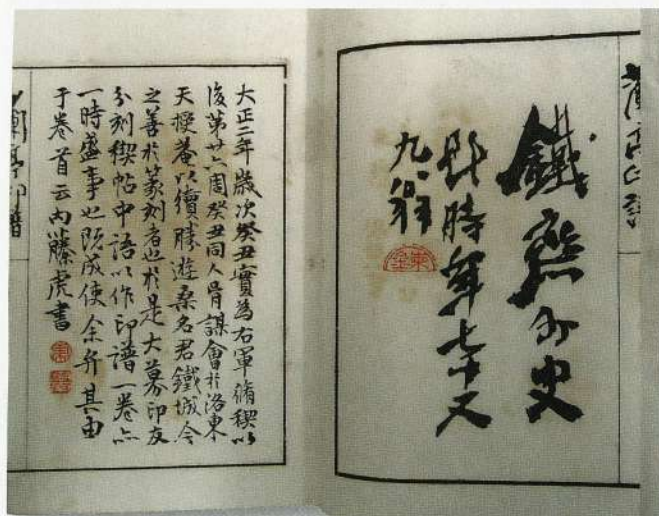


写真4 「蘭亭印譜」

大正三年歳次癸丑實為右軍備後... 後第廿二回癸丑同人會謀會并洛東... 天授卷以續時遊桑名君鐵城令... 之善於篆刻者也其是大篆印友... 分刻契帖中語以作印譜一卷... 一時盛事也既成使余并其由... 于卷首云内藤虎書

中国の「書聖」王羲之（三〇三—三六二）は、永和九年（三五三）年、癸丑の年に蘭亭で曲水の宴を催しました。その時集まった人々による詩集「蘭亭集」に記された序文「蘭亭序」は、王羲之の代表作として大変有名な書作品となります。

この「蘭亭序」が記されてから二十六回目の癸丑の年となることを記念して、大正二（一九一三）年、東京と京都

「蘭亭印譜」

（写真4）

西園寺公は、幼いころから中国の歴史や漢詩を学び、書画、詩、篆刻、煎茶などの「文人趣味」も嗜み、内藤湖南や、富岡鉄斎、桑名鉄城といった京都在任の東洋史の学者や文人たちと盛んに交流を持ちました。こうした西園寺公の文人趣味は、展示で紹介した遺愛の煎茶道具や文房具といった品々に加えて、江戸後期の文人画家、田能村竹田（一七七七—一八三五）が所蔵していた印を集めた『竹田印譜』や、明から清時代の文人、周亮工（一六一二—一六七二）の『賴古堂印譜』といった、愛読書にもよくあらわれています。

「漢籍」

西園寺公は、幼いころから中国の歴史や漢詩を学び、書画、詩、篆刻、煎茶などの「文人趣味」も嗜み、内藤湖南や、富岡鉄斎、桑名鉄城といった京都在任の東洋史の学者や文人たちと盛んに交流を持ちました。こうした西園寺公の文人趣味は、展示で紹介した遺愛の煎茶道具や文房具といった品々に加えて、江戸後期の文人画家、田能村竹田（一七七七—一八三五）が所蔵していた印を集めた『竹田印譜』や、明から清時代の文人、周亮工（一六一二—一六七二）の『賴古堂印譜』といった、愛読書にもよくあらわれています。

で蘭亭会が開催されます。京都での蘭亭会は、西園寺公とも親交があった内藤湖南が中心となって行われました。『蘭亭印譜』はこの会で頒布された記念品で、内藤湖南、西園寺公をはじめ、様々な文人による「蘭亭序」の篆刻の印がまとめられています（写真5）。

このように、ごく一部ではありますが、西園寺公の愛読書を紐解くことで、公の文学や芸術に対する造詣の深さのみならず、幅広い分野の人々との交流の一端がうかがえます。坐漁荘を訪れる機会がございましたら、ここでご紹介したような西園寺公の、豊かで広く、洗練された知識と趣味を思いおこしてご覧いただくと、建物の魅力をより一層感じていただけることと思います。



写真5 西園寺公の篆刻

明治村所蔵の西園寺公望愛読書について

●西園寺公望別邸「坐漁荘」（3丁目27番地）



「洋書」

当館が所蔵する西園寺公の愛読書には、洋書、特にフランス語の書籍が多く残されています。その分野は、政治や外交に関するものから、小説、戯曲、伝記など、多岐に渡ります。政治・外交に関するものとしては、西園寺公が坐漁荘で過ごした二十世紀初頭の国際情勢がうかがえるような、ドイツやソビエト連邦に関する著作が散見されます。また一方で、ジュール・ロマン、アンリ・ラヴダン、ジョルジュ・クルトリーヌといったフランス人作家による小説や戯曲の数も多く、西園寺公が留学時に親しんだフランスの芸術や文化を偲ばせます。

また洋書の多くはページを裁断せずに装本した「フランス装」となっています。「フランス装」の本はページを切りながら読み進める必要がありますが、ほとんどのページが切り開かれており、西園寺公が実際にこれらの洋書に目を通していたことが分かります（写真1）。また、丸善から「原田家御執事御中」宛てに発行された、書籍の案内票が挟まれている書籍もありました（写真2）。晩年になっても書店を通じて海外の書籍を取り寄せるほど、西園寺公が



写真1 ページが切り開かれたフランス装の本



写真2 丸善の商品御案内票

読書熱心であったことが伝わってきます。

ジャン・マルテ「クレマンソーの沈黙」

（写真3）

ジャン・マルテ (Jean Martet 1886-1940) はフランスの小説家・劇作家です。マルテは、二度フランスの首相となった、ジョルジュ・クレマンソー (Georges Clemenceau 1841-1929) の秘書を務めたこともあり、本書を含め数冊、クレマンソーに関する書籍も著しています。

この本で描かれているクレマンソーは、明治四（一八七二）年から約十年にわたる西園寺公のフランス留学時、エミール・アコラス (Emile Accolas 1826-91) の私塾で共に学んだ関係でした。二人はその後、大正八（一九一九）年のパリ講和会議で、それぞれフランス首相と日本の首席全権大使として再会しています。

またクレマンソーは、印象派を代表する画家クロード・モネ (Claude Monet 1840-1926) の友人であり、連作『睡蓮』を描ききっかけとなった人物としても知られています。こうした縁もあってか、モネが描いた『モンソー公園』は、西園寺公の実弟・住友春翠によってパリで購入され、一時は坐漁荘の洋間に飾られていたこともありました（注1）。

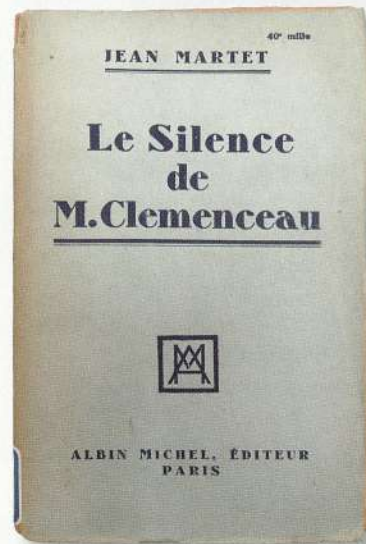


写真3 「クレマンソーの沈黙」

注1 明治村だより76号で紹介した「熊谷八十三の日記に描かれた坐漁荘2」において、モネの絵画が坐漁荘の洋間に掛けられたことが記されています。